

文部科学省 共同利用・共同研究拠点

立命館大学アート・リサーチセンター 日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点
2014年度 共同研究成果報告書

2015年 4月 30日 提出

1. 研究課題名	
海外日本美術品・工芸品のデジタル・アーカイブとコレクション研究 (英文標記: Digital Archiving the Japanese arts and research the Japanese art collection in Europe and U.S.A.)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
John Carpenter(ジョン・カーペンター)	メトロポリタン美術館・学芸員
3. 研究分担者 (合計: 4 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
Bincsik Monika	メトロポリタン美術館 日本部門学芸員
Janice Katz	シカゴ美術館・アソシエート学芸員
Alice Kraemerová	ナールステク博物館 日本・韓国担当学芸員
Markéta Hánová	プラハ国立美術館・アジア部・主任学芸員
Hans Thomsen	チューリッヒ大学東洋美術部・教授
小山騰(こやまのぼる)	ケンブリッジ大学図書館日本部門司書
Andrew Gerstle	ロンドン大学 SOAS・教授
Ellis Tinios	リーズ大学・名誉講師
Timothy Clark	大英博物館・日本担当主任学芸員
松葉涼子(まつばりょうこ)	大英博物館・アジア部・研究員
Rosina Buckland	スコットランド国立博物館・東アジア担当上級学芸員
Clare Pollard	オックスフォード大学・アッシュモリアン博物館・学芸員
Annegret Bergmann	ベルリン自由大学美術史学部・准教授
Cora Würmell	ドレスデン州立磁器美術館・学芸員
Matthi Forrer	ライデン民族学博物館・主任学芸員
Ewa Machotoka	ライデン大学・地域研究研究所
Donatella Filla	キオッソーネ東洋美術館・館長
Bonaventura Ruperti	ヴェネチア大学・日本学科・教授
Silvia Vesco	ヴェネチア大学・アジア・北アフリカ学科・教授
Sonia Favi	ヴェネチア大学・日本学科・助手

前崎信也(まえざきしんや)	京都女子大学・准教授
赤間 亮(あかまりょう)	立命館大学・文学部・教授
鈴木桂子(すずきけいこ)	立命館大学・衣笠総合研究機構・教授
金子貴昭(かねこたかあき)	立命館大学・衣笠総合研究機構・准教授
加茂瑞穂(かもみずほ)	立命館大学・衣笠総合研究機構・専門研究員
川内有子(かわうちゆうこ)	立命館大学・文学研究科・博士後期課程 D1
常木佳奈(つねきかな)	立命館大学・文学研究科・博士前期課程 M2

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
<p>欧米各国に散在する日本美術・工芸品をアート・リサーチセンターのデジタル・アーカイブ技術を活用して、デジタル化し、各所蔵機関が共同で利用できる大規模なデータベースを構築する。このデータベースを共同利用しながら、とくに、関連するドキュメント、古典籍をもデジタル化することにより、海外に輸出された美術・工芸品がどのように理解されてきたか、コレクションそのものの総体がどのような性格を持つのか、それらが日本文化理解をどのように深めて来たかを考察する。データベース化により、分野の異なる美術品・工芸品を結びつけ、また、未整理・新収の文化資源についても、継続的にデジタル・アーカイブすることに務める。可能な限り一般公開に結びつけ、この分野の研究環境の高度化を実現する。</p>
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)
<p>今年度は、分担研究者が所属する研究組織や関係する組織が所蔵する日本美術・工芸品のデジタル・アーカイブを実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, NYメトロポリタン美術館収蔵品 バーシ・バウコレクション(絵本)の約240点のデジタル化とWEB公開。従来からの収蔵品(古典籍)のデジタル化も継続中。 2, カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館 旧三井コレクションの内、まったく未整理未登録となっている、銅版画作品のデジタル化と整理。 3, 大英博物館日本古典籍のデジタル化 大英博物館所蔵の日本古典籍全3000タイトルのデジタル化を完了。専門研究員の派遣、大英博物館の一般公開コレクションDBから閲覧が可能。絵巻・掛幅2000点のデジタル化について、立命館院生のインターンシップ型派遣により、継続。大英博物館の展示計画に合わせて、根付等の小物立体物のデジタル技術調査(3D計測、CTスキャンなど) 4, ケンブリッジ大学図書館 Aston, Satow and von Siebold Collections のデジタル化継続と改修プロジェクトの開始。 5, ライデン民族学博物館の古典籍デジタル化 6, 「日本の版画」美術館(個人美術館・アムステルダム)の冊子資料デジタル化 7, スイス・チューリッヒ大学との共同研究 ジュネーブ市立歴史美術博物館版画部での展覧会開催、リートベルグ博物館の古典籍のデジタル化に向けた、予備調査実施。 8, ヴェネチア大学との共同研究 ヴェネチア東洋美術館にて「広重展」開催。ローマ・サレジオ大学図書館マレガ文庫のデジタル化と一般公開。
6. 研究業績

(1) 著書

Le geste suspendu; ESTAMPES KABUKI DU CABINET D'ARTS GRAPHIQUES (Les differents types d'images d'acteur (Various Types of Actor Prints)), 共著, Musees d'art et d'histoire de geneve, 2014/10, Ellis Tinios, Hans Bjarne Thomsen, Ryo Akama

・文化情報学ガイドブック : 情報メディア技術から「人」を探る : デジタル・ヒューマニティーズ, 共著, 2014/11, 勉誠出版, 赤間亮、他

・Fantasía en escena: kunisada y la escuela utagawa (Yakusha-e: las estampas de actores en el contexto visual del ukiyo-e), 単著(分担執筆), Madrid y Murcia, 31-44, 2014/5, 赤間 亮

(2) 論文

・役者絵本と役者似顔春本 : 初代豊国画『会本恋の楽室』を中心に, 単著, 2015/03, アート・リサーチ, 15, 松葉涼子, 156-126, 査読有

(3) 研究発表等

・Floats (Float Decorations) and Pictorial Themes (山車と画題), 2015/1/26, Degrees of Narrativity in the Japanese Visual Tradition, ハワイ・パシフィック大学(共催:立命館大学アート・リサーチセンター) Japan Research Group (JRG), 赤間亮(単独), 査読無

・(講演) Kabuki Theater and Yakusha-e in the Woodblock Prints, University of Zurich, Room RAK, 2014/11/14, 赤間 亮

(7) 科学研究費助成事業